

社会福祉法人花輪ふくし会

第六次基本計画書

(令和7年度 ～ 令和9年度)

「ふくし」で支える地域の幸せ

「ふくし」を支える人と環境づくり

第六次基本計画

花輪ふくし会の第六次基本計画は、第五次基本計画の検証・分析結果を基に、ご利用者様、職員、法人、地域のウェルビーイングの向上に向けた更なる改善と改革を行い、中長期基本計画のビジョンを達成するための道筋として、令和7年度から3ヶ年の計画で実施します。

また、この第六次基本計画の実施については、秋田県の介護保険事業支援計画・老人福祉計画及び障がい者計画、鹿角市の高齢者福祉・介護保険事業計画及び障がい者福祉計画・障がい児福祉計画、小坂町及び大館市の障がい福祉計画との整合性を図りながら、計画を推進するものです。

経営理念

「笑顔とありがとうの心で地域福祉を創造します」

経営方針

1. 良質のサービス提供
2. 情報開示、透明性の確保
3. 人権擁護とご利用者様主体
4. 地域からの信頼

中長期基本計画ビジョン

「この地域にあって良かった花輪ふくし会」

1. 利用者サービスの向上

花輪ふくし会の強みである鹿角・小坂・大館地域を網羅する複合的福祉サービスの提供は、第五次基本計画においても障がい児者、高齢福祉サービスの提供として継続され、相談支援事業では高齢・障がいの垣根なく共同で行うことで、地域住民の抱える「複雑化・複合化した課題」をワンストップ（包括的相談支援）で受け、必要なサービスを迅速に提供することができました。

今後の課題として、3地域での高齢・障がい福祉サービスの質を向上させながら継続し続けるための人財確保や建物等の老朽化への対応が挙げられます。その対応策として、外部機関によるサービス評価受審による透明性の確保、ご利用者様の重度高齢化に対応するための喀痰吸引や認知症対応のための資格取得や研修受講、人財確保と併せたICTやDX（タブレット、眠りスキャン、インカム等）等による環境整備が必要です。

第五次基本計画 総括

（令和4年度～令和6年度）

2. 健全な経営基盤の確立

花輪ふくし会の経営理念『笑顔とありがとうの心で地域福祉を創造します』と中長期計画のビジョンである『この地域に、あって良かった花輪ふくし会』を理解し行動するため、法人研修や各種会議、ミーティング等を通して理解を図りました。

また、質の高い安定したサービス提供の継続と人財の確保・定着の基となる経営基盤については、毎月の経営分析による収支バランスの分析と対応により、安定した経営となりました。

更に令和5年度からはトヨタ生産方式を基にした経営、サービス、組織風土の改善にも取り組み、より安定した経営と働きやすい職場づくりを目指しています。

今後も法人内部・外部監査を通し内部統制を図りながら、花輪ふくし会の存在意義を明確にし、複雑化・多様化するニーズに対応できる組織作りを継続していく必要があります。

第五次基本計画 総括 (令和4年度～令和6年度)

3. 魅力ある法人づくり

より多くの人に花輪ふくし会の存在や事業、活動内容を知っていただくためにフェイスブックやインスタグラムを開設しました。人財定着の状況を示す入職超過率については、過去2年は入職者よりも離職者が多い状況でしたが、令和6年9月現在は入職者が上回る状況に転じています。「人財マネジメントの強化」の一環として「1on1ミーティング」を実施してまいりましたが、結果、心理的安全性が確保され離職者の減少につながったと思われれます。又、多様な休暇制度等の福利厚生改革が「働きやすい」と感じられる環境の要因であることは確かであり、今後も福利厚生の充実を図るため様々な情報を収集して改善を進めていく必要があります。

人財確保については、学校巡回や就職フェア等への参加を行いました。大きな有効性を得られるものとはならず、今後は、学生の就職活動に合わせたSNS等の活用と対面による採用活動を通年で行っていくことがポイントになると考えられます。

法人レクについては、一定の成果はみられますが、若手職員の参加率の低さが課題となっています。法人レクの印象や参加状況を精査し、全ての世代が交流しあえる職場環境の構築が必要と考えられます。

第五次基本計画

総括 (令和4年度～令和6年度)

4. 社会貢献・地域貢献

第五次基本計画時は新型コロナウイルスのパンデミックがあり、地域での活動が容易ではなく、地域行事への参加や法人主催の催しを断念せざるを得ない状況でありました。一方、法人で主催している資格取得研修等については感染症対策を徹底しながら計画的に実施することができました。

第六次基本計画では、地域行事への参加や法人セミナー等、事業所外での活動を再開し、より身近な社会福祉法人となるよう取り組んでいきます。

第五次基本計画 総括

(令和4年度～令和6年度)

5. 自然災害や感染症に強い法人づくり

第五次基本計画時において、大規模自然災害はありませんでしたが、新型コロナウイルスによる集団感染が発生し、事業継続のため法人内での人員調整や資材等の協力が行われました。また、令和4年の鹿角市豪雨災害時には、法人に市から受け入れについての相談が複数件あり、和光園では福祉避難所として1名の受け入れを行う等、災害対策が有効に機能したと考えられます。

B C Pについては災害時B C Pを基に法人事業所連携による訓練が実施され、机上ではわからない具体的な課題を見つけることができました。今後も災害や感染症に対応しながらの事業を求められるため継続的な訓練が必要です。また、地域との防災等連携について、コロナ禍において合同訓練の中止等により連携の希薄さがみられるため、地域連携については再構築するための取り組みが必要と考えます。

第五次基本計画 総括 (令和4年度～令和6年度)

第六次基本計画の役割

経営理念

経営方針

中長期基本計画

第六次基本計画

各施設事業計画

第六次基本計画の3本柱

1. 魅力ある法人

- ご利用者様、職員、法人の幸福
- サービスの生産性向上

2. 持続可能な法人

- 法人の継続性
- 持続可能にするための人財確保と定着

3. 地域に愛される法人

- 多様な福祉ニーズへの対応
- 情報発信
- 身近に「ふくし」を感じることができる環境づくり

具体的取り組み

1. 魅力ある法人

ご利用者様一人ひとりの尊厳を支え、その人らしい生活を送ることができるための支援体制を強化し、良質で満足度の高いサービスを提供します。

また、働く人が職場もプライベートも自分らしく生きるために、自己成長と挑戦することができる法人づくりに取り組みます。

(1) ご利用者様、職員、法人の幸福 (ウェルビーイング)

- ① 満足度の高いサービスの提供
- ② 人財育成
- ③ キャリアパス
- ④ 福利厚生の実施

(2) サービスの生産性向上 (サービスイノベーション)

- ① ICT・介護ロボット
- ② 業務改善の取り組み

具体的取り組み

2. 持続可能な法人

この地域で暮らす誰もが安心して生活を続けられる、また、働く人が「働き続けたい」と思える、将来性のある安定経営に取り組みます。

(1) 法人の継続性

(ゴーイングコンサーン)

- ① 堅実な経営
- ② サービスバランス
- ③ 事業継続計画
- ④ 今後を見据えた事業の継続可能性

(2) 持続可能にするための人財確保と定着 (サステイナブル)

- ① 人財確保
- ② 多様な働き方
- ③ メンタルヘルス

具体的取り組み

3. 地域に愛される法人

「あってよかった花輪ふくし会」の役割をさらに加速するため、より地域に寄り添った「隣にいてくれてよかった」と思われる、多くの人に愛される法人を目指します。

(1) 多様な福祉サービスへの対応 (ウェルフェアニーズ)

- ① 子どもから高齢者、障がい者等、幅広い連携支援
- ② アウトリーチ

(2) 情報発信

(パブリックリレーションズ)

- ① SNS
- ② 広報

(3) 身近に「ふくし」を感じることが できる環境づくり (マンパワー)

- ① 学校訪問・セミナー
- ② 実習・ボランティア等